



まだ誰も知らない安心を、ともに。

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

日本一市民目線の市役所を目指して



静岡県
Susono City

裾野市

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

裾野市

“全国初”裾野市において「交通安全 EBPM 支援サービス」を導入 ～データを活用した交通安全対策の立案・効果検証により未来志向のまちづくりを支援～

2022年7月4日

MS&ADインシュアランスグループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（代表取締役社長：新納 啓介、以下あいおいニッセイ同和損保）と裾野市（市長：村田悠、以下裾野市）は、裾野市が掲げる「未来志向のまちづくり」に向けて、あいおいニッセイ同和損保がもつテレマティクス自動車保険契約を通して蓄積した自動車走行データを活用し、交通安全対策の立案・効果検証を支援する「交通安全EBPM※1支援サービス」※2の活用について合意し、2022年7月から全国で初めて取り組みを開始します。

※1 Evidence-Based Policy Making（証拠に基づく政策立案）の略。政府にて推進されており、政策効果の測定に重要な関連を持つ情報や統計等のデータの活用が求められている。

※2 https://www.aioinissaydowa.co.jp/corporate/about/news/pdf/2022/news_2022042700994.pdf

1. 背景

あいおいニッセイ同和損保と裾野市は、同社の関連事業会社である株式会社あいおいニッセイ同和自動車研究所が1994年より同市に拠点を構えるなど、従来から関係構築を図っており、2016年12月には地方創生に関するパートナーシップ協定を締結し、地域課題の解決に向け連携して取り組んできました。

あいおいニッセイ同和損保は、自治体のデータに基づく交通安全対策の立案・効果検証を支援するため、同社のテレマティクス自動車保険のデバイスから取得した走行データを活用し、交通量に対して急ブレーキなど危険な運転挙動の発生頻度が高い地点を地図上に可視化する「交通安全マップ」※3を2022年4月に開発しました。また、5月からは交通安全マップから選定した危険箇所候補の詳細分析を通じ、最適な交通安全対策メニューや、効果検証を通じた政策の継続・見直し等の提案を実施する「交通安全EBPM支援サービス」の提供を開始しました。

裾野市は「日本一市民目線の市役所」をスローガンに「財政再建および時代と市民ニーズにあった市民サービスづくり」を実施しています。特に、市内でウーブン・シティの建設が進んでいるなか、市域全体への先進技術やデータを活用し、都市・交通・社会基盤の構築を通じた「未来志向のまちづくり」に注力しています。

また、「未来志向のまちづくり」に向けて、あらゆるデジタル技術を活用し、市民をはじめ同市を訪れた人が安全で快適に移動できるよう、歩行空間の確保や通学路等の事故防止・安全対策を講じていますが、より効率的・効果的な対策の実施に向けて、更なるデータ利活用に向けた検討を行ってきました。

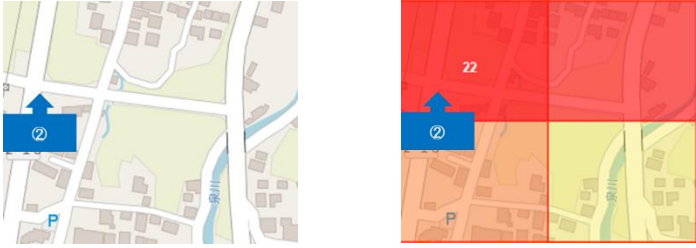


今般、データ利活用による裾野市の「未来志向のまちづくり」実現のため、同市の交通施策にあいおいニッセイ同和損保の交通安全EBPM支援サービスを導入することとしました。

※3 個人情報を含まない形で自動車走行データの加工・統計化を実施。

2. 取り組みの概要

(1) 対象箇所・交差点

検証実施地点	課題・検証項目
①久根332付近交差点 [左側]通常の地図 [右側]交通安全マップ ・急ブレーキなど危険な運転挙動の発生頻度が高い地点を赤色で表記(数字は発生頻度の順位)	信号のない十字路への車両進入時の危険挙動調査と対策の検討 

②公文名32付近交差点	迂回路として利用する車両による危険挙動調査と対策の検討 
③稲荷26付近交差点	見通しの悪い交差点進入時の車両の危険挙動調査と対策の検討 
④茶畑594付近交差点	2022年5月末に実施した交通安全施策(一時停止設置)の効果検証 

(2) 本取り組みにおける交通安全EBPM支援サービスの内容

①裾野市内で実施した交通安全施策に対する効果検証

- ・交通安全施策の実施前後の車両の挙動変化や、それによる危険度合の変化などを評価し、当該施策の効果検証や、別地点への応用につなげる
- ②道路整備による車両の挙動変化やそれに伴う危険の評価
- ・危険の原因（速度超過、一時不停止など）や度合（危険挙動発生回数や交通量など）を評価し、適切な交通施策の選択や施行箇所の優先順位付けなどにつなげる

(3) 実施期間

2022年7月～2022年12月（予定）

3. 今後の展開

あいおいニッセイ同和損保は、本取り組みを通じて、交通安全施策の効果検証や道路整備による車両の挙動変化やそれに伴う危険の評価といった交通安全EBPM支援サービスのノウハウの蓄積を目指します。また、事故データの活用、新たな危険挙動の定義化など本サービスの更なる高度化を図ることで、まちづくりへの活用検証をすすめるとともに、全国の自治体に対しても導入の提案を行っていきます。

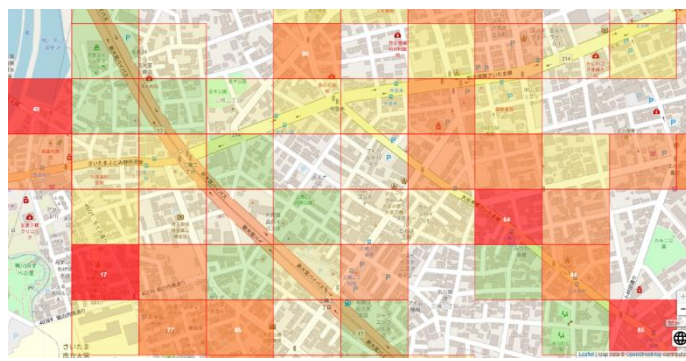
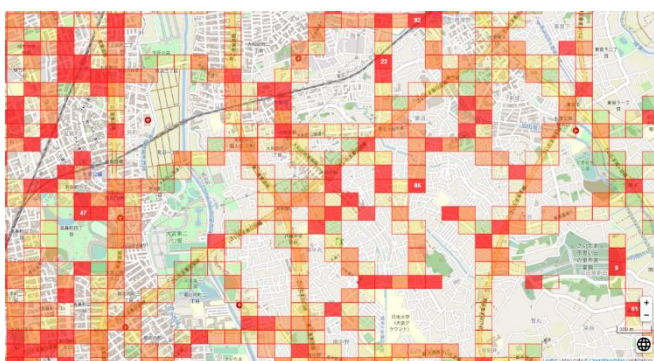
裾野市は、本取り組みを通じて、先進技術やデータを活用し、事故が起こる前の交通安全対策やまちづくり施策の実施につなげ、未来志向のまちづくりを推進するとともに、「財政再建および時代と市民ニーズにあった市民サービスづくり」の実現を目指します。

以上

■別紙

<ご参考①> 「交通安全マップ」の特徴

あいおいニッセイ同和損保のテレマティクス自動車保険のデバイスから取得した走行データを活用し、交通量に対して急ブレーキなど危険な運転挙動の発生頻度が高い地点を最小約120mメッシュで地図上に可視化します。「危険挙動発生件数」のみでは、幹線道路と生活道路など交通量の異なるエリア間の比較は困難です。しかし、「危険挙動発生率」による危険箇所候補の判別を行うことで、交通量に依らずに評価することが可能です。また、走行データは約1秒間に一度の頻度でデバイスからデータ取得を行っており、1台毎の車両の挙動を詳細に分析できます。



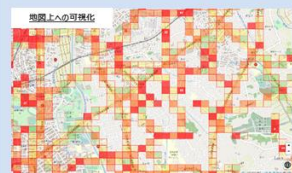
<ご参考②> 「交通安全EBPM支援サービス」の内容

「交通安全マップ」から選定した危険箇所候補の詳細分析を通じ、最適な交通安全対策メニューをご提案します。加えて、対策メニューの効果検証を通じ、政策の継続・見直し等をご提案し、政策の有効性向上を支援します。これら「交通安全EBPM支援サービス」を通じて、機動性の高い、また持続性のある「安全・安心なまちづくり」の実現に寄与します。

STEP1

危険箇所候補の選定

テレマティクスデータの地図上への可視化により、地域の**危険箇所候補を選定**

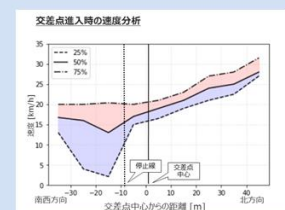


4月提供開始

STEP2

危険箇所の分析

STEP 1 で選定した候補地点の**詳細分析**を実施



STEP3

対策

STEP 2 の分析結果をふまえて交通安全対策の**施策を提案**

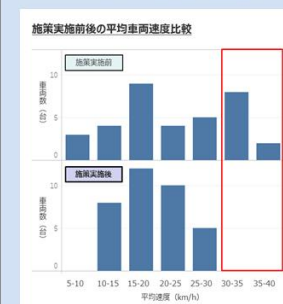


5月から開始

STEP4

効果検証

STEP 3 の施策実施前後での時系列分析による**効果検証**



以上